



2月2日(日)、みやま市山川市民センターにて「国連の開発目標 SDGs でえがくみやまの未来」というテーマで、「2020年環境講演会/SDGs シンポジウム」が開催されました(主催:みやま市環境衛生組合連合会/共催:みやま市)。

この会の実施に先立って、みやま市では本年度に初めて「高校生海外派遣交流事業」が企画され、昨年11月6日(水)~11日(月)の4泊6日、地域を挙げて環境政策・エネルギー政策に取り組むドイツ連邦共和国フンスリュック郡にみやま市在住の高校生4名を派遣して

いただきました。

本校生2名に他校生2名、引率として本校教諭1名、行政から1名の計6名が、フンスリュック郡で充実した研修にあたり、2日(日)の会では高校生4名が環境先進地体験報告をし、パネルディスカッションのパネラーを務めました。

本校生の2名は2年生の鶴田真唯(つるた まい)さんと1年生の野田結来(のだ ゆら)さんです。

■レジュメの「登壇者紹介」から

○鶴田 真唯(瀬高中学校出身)

【みやま市の好きなもの・こと】

自然豊かなところ、道の駅みやま、みやま市立図書館、くすっぴー(みやま市のゆるキャラ)、みやま納涼花火大会

【こんなみやま市になったらいいな】

若い家族や子供がたくさんいる。活気あふれるみやま市になってほしいです。

○野田 結来(山川中学校出身)

【みやま市の好きなもの・こと】

自然豊かなところ、平家一本桜、山川みかん、みやま納涼花火大会、ひとがいい(優しい)、みやま市の人は優しく、人がいいのでとても恵まれたところで育ったなと感じます。

【こんなみやま市になったらいいな】

人がたくさんいてにぎやかな市、カフェなど映える所がほしいです。

■報告・パネルディスカッションの発言から

○鶴田さん

- ドイツでの研修は、単に環境について学んだだけではなく、人間としてあるべき姿を学んだような体験となりました。
- フンスリュック郡の前郡長さんから、「エネルギー事業は利益のためではなく、町の安心感のためにやっている」という言葉をうかがいました。この言葉自体がドイツの人の意識だったり考え方だったりすると思うので、私も利益を追い求めるというよりも、自分の周りの人のために何かができる大人になりたいと強く感じました。
- 私はこれまでSDGsというのは、難しいことだと思っていました。このシンポジウムに参加



させていただく前に、自分なりに SDGs について学んだんですが、ネット上に書いてあることは難しい用語が使われていて、私たちが学ぶには難しいと思うんです。でも、こういう場で学ぶことによって、人から人に伝えられるので、理解しやすいと感じました。こういう場に積極的に参加することが、SDGs に向けてみやま市が活性化していくことにつながっていくと思います。今日は正しい知識を得たと思います。この正しい知識を正しく利用できるように、今後生活していきたいと思っています。

○野田さん

- 授業で学んだことを現地で実際に見ることができて、とてもよかったです。
- ドイツの町を歩いてみると、自転車やスクーターが目につきました。自動車を利用している方もいるんですが、ある村では家庭に自動車が1台あるけれども、村でも電気自動車を1台持っていて、これを村でシェアするという取組も行われていると聞きました。このように、生活に身近なものを一つずつ多くの方が改善していくことが、排気ガスを減らして地球温暖化の悪化を防ぐことにつながると思いました。これが SDGs の 13 番の「気候変動に具体的な対策を」に該当するのではないか、このようなことを考えるきっかけになりました。



このような生徒たちの発言に、未来を感じることができました。数年後には社会に出て活躍が期待される人財ですから、高校時代に様々な機会をとおして「おとな社会」に出て、緊張するような体験をし、評価されるといった経験をしてこそ高校生が成長していくのだと思っています。この度はドイツへの派遣、報告会・パネルディスカッションという成長の機会を与えていただいたみやま市に、校長としてとても感謝しています。

学校においても、未来を切り拓くための学びを得るチャンスを、授業も含めて学校の内外に設けることが、私たち教師の役割であると再確認することができました。

ドイツでの研修、この度の講演会・シンポジウムに参加させていただいた2名の生徒は、地域や身近なところでできること、そして学校内でできることに目を向け、きっと action を起こしてくれることと楽しみにしています。